

# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

奥の細道  
むすびの地  
大垣

令和八年一月度 入賞句一覧

投句数 五百三十一句

## 特選

手がかりは雪の足あとかくれんば

大垣市

中村 朱里（小四）

一月後半に大垣でも雪が降りました。この地方も、年に数回積もることがありますね。が降ると登下校など大変ですが、心がなんとなくウキウキするのも確かです。作者は雪が積もつたグランドか公園でかくれんばをしまして鬼になつたのでしょか。新雪に残つた足跡目に浮かんできます。下五の「かくれんば」がいく緊張感、したり顔で隠れ場所に迫る様子が種明かしのような楽しい句ですね。

いきしろしくちからおばけとんでいく

大垣市

水戸 咲那（小四）

季語「いきしろし」は冬の季語。この時期は普通に呼吸をしていても吐く息は白くなりますが、作者はその白い息を「おばけ」にたとえて表現しました。だれもが経験する冬の一コマをうまく自分だけの表現で十七音にまとめています。確かに口や鼻から出る白い息は、一度たりとも同じ形にはなりませんよね。その様子を「おばけ」としたところに作者のオリジナリティーがあります。いつたいどんな「おばけ」に出会えたのでしょうか。

冬風に負けないようペダルこぐ

加茂郡川辺町

梅村 姫由陽（中三）

中三の作者は、今受験の真っ只中。自転車をこいで学校か塾に向かつているのかもしれません。冬の風は冷たくて、自分の体を押し返してくるような感覚になるに違ひありません。それでも「負けないよう」自分を奮い立たせて風に向かつてペダルをこぐ作者の姿が浮かんできます。まさに今受験に向かつて真正面から挑んでいる作者の決意や姿も想像させてくれる句です。希望が叶うよう、心からエールを送ります。

## 秀逸

素足での体育館の寒げいこ

大垣市

市川 棟一（小六）

空高しこツをつかんだこうさとび

大垣市

水谷 洸士郎（小二）

雪の朝校門ひらく音ひとつ

加茂郡川辺町

吉田 心優（中一）

もちつきの木遣りとともにもちのびる

加茂郡川辺町

福園 恵菜（中三）

雪の朝赤い顔した君がいる

加茂郡川辺町

工藤 結奈（中三）

久しぶりおでんの中のゆで卵

加茂郡川辺町

神農 はな（中三）

なわとびにからまる妹年の暮

加茂郡川辺町

高井 菜々美（中三）

白い息競いあつてる通学路

大垣市

森川 結月（小四）

まつ黒なかおでしようぶだ羽つきで  
ゆきだるまみんなで作るたからもの

大垣市

はつとり つかさ（小三）

## 星野 勝 選

小中学生の部

## 入選

冬の月ベランダから見たふろ上がり

冬の風渴いたのどに缶ジュース

雪合戦野球の成果を発揮する

初雪や校庭白く声ひびく

初雪だ家飛び出してかけ回る

換気する窓を開けたら冬のにおい

白い息真赤な頬が笑つてる

木枯らしや信号待ちの影ふたつ

こたつ猫足の上にてスピスピと

ストーブのとう油のにおい冬感じ

雪景色静かな街に影ひとつ

雪景色君の頬だけピンク色

のぞきこむえがおにみえるゆきだるま

家族のも一人じめしたプロッコリー

すこしだけつもつたゆきを手でかため

おおみそかカウントダウンゆめでする

こまあとびひつぱりすぎてとんでつた

にんじんが鼻になつてるゆきだるま  
お年玉ちよ金がふえるばく上がり  
お正月ねてないけれど元氣である

## 小中学生の部

大垣市

陸田 峻生（小四）

加茂郡川辺町

石丸 奏太（中二）

加茂郡川辺町

渡邊 瑛汰（中二）

加茂郡川辺町

木下 仁瑚（中二）

加茂郡川辺町

加藤 龍之介（中二）

加茂郡川辺町

加藤 優奈（中一）

加茂郡川辺町

平岡 初月（中一）

加茂郡川辺町

福井 愛琉（中一）

加茂郡川辺町

高橋 なな未（中三）

加茂郡川辺町

北村 琉音（中三）

加茂郡川辺町

木下 愛琉（中三）

加茂郡川辺町

土屋 奈々（中三）

大垣市

まるやま ふみか（小四）

大垣市

市川 珠理（小四）

大前 七海（小四）

大垣市

戸谷 優莉（小四）

大垣市

川さき りおな（小三）

大垣市

ささ木 りょう（小三）

大垣市

こ玉 ま央（小三）

大垣市

なかしま ももか（小三）

教へ子の賀状に名前増えてをり

選者吟

